

グロースエナジー社、家庭用燃料の低コスト化を実現したバイデン氏に感謝

2022年4月12日

ワシントン D.C. - 本日、バイデン大統領はアイオワ州メンローで、グロースエナジー社のメンバー工場である POET 社バイオプロセッシング-メンローを視察し、2022年の夏のドライブシーズンに向けて、政府が E15（ガソリンへの 15%エタノール混合）に対する制限を解除することを発表した。このイベントに参加したグロースエナジー社 CEO のエミリー・スコーは、以下の声明を発表している。

「これは、給油時に低コストの選択肢を求めるすべての米国のドライバーにとって歓迎すべきニュースです。E15 に対する時代遅れで不必要な夏季の規制を解除することにより、ここ数週間での E15 ガソリン 1 ガロンあたり 50~60 セント（1 リットルあたり 13~16 円）の節約が継続され、一般家庭による消費が最も多い時期の負担を軽減することができます。

この決定は、米国のドライバーとわが国のエネルギー安全保障にとって大きな前進であるだけでなく、給油時のクリーンな選択肢と地方経済の強化を意味するものです。エタノールのような米国のバイオ燃料は、レギュラーガソリンと比較して温室効果ガスの排出を 46% 削減し、国の気候変動目標を達成する上で重要な役割を果たしているのです。

バイデン大統領と、ガソリン価格上昇の解決策として米国産バイオ燃料の普及に貢献したヴィルサック農務長官の支持に感謝します。我々は、この政権と議会の指導者たちと協力して、今後数年のうちに E15 を通年で利用できるようにする恒久的な措置を実現することを楽しみにしています」

E15 は、31 州の 2,600 以上のガソリンスタンドで購入でき、全走行距離の 98% を占める小型車の 96% 以上に認可されている。最近の原油価格の高騰以前から、全国で E15 を使用することにより、ドライバーは年間 122 億ドル（約 1 兆 5 千億円）の燃料費を節約できると試算されていた。

E15 は、実際には E10（エタノール 10% 混合）よりも蒸気圧が低いエタノール 15% 混合燃料である。しかし、30 年前に設定された規制と、10% を超える混合がまだ想定されていなかった時代の規制により、E15 は夏季の使用が禁止されている。実際には、エタノール燃料の混合率が E10 を超えると、燃料の揮発性と蒸発排出量は減少し続ける。

今回の POET 社を含め、バイデン大統領がエタノール工場を訪問するのは今回が 2 回目であり、大統領候補として 2019 年にアイオワ州ビッグリバーリソース社を見学している。

（アメリカ穀物協会による仮意訳です。不明点など正確には原文にあたってください。）